

音楽文化政策によるまちづくりの可能性に関する一考察 —大阪府豊中市「音楽あふれるまち・とよなか」の事例を通して—

東洋大学国際観光学部 准教授 八木 京子

要旨

近年、社会経済の構造変化に伴うさまざまな都市問題に対し、音楽や映画、ゲーム、ファッションなどの創造的産業や文化芸術が持つ「創造性」を活用することによって克服し、都市を再生・活性化しようとする「創造都市」の概念が注目を集めている。日本国内においても地方自治体を中心に、文化芸術の創造性を中核に据えた施策や取り組みを展開するなど、「創造都市」の実現を政策の一つとして標榜する動きが活発化している。そこで本研究では、音楽を主軸としたさまざまな創造都市政策（音楽文化政策）を実施している大阪府豊中市の取り組み事例を取り上げ、音楽をはじめとする文化芸術を活用した都市政策やまちづくりの可能性について考察を行った。その結果、豊中市では音楽などの文化芸術が有する創造性にいち早く着目するだけでなく、市の歴史や文化資源、人材といった多様な地域の特性や優位性を最大限に活用することによって、独自性の高い音楽文化政策を展開していることが明らかとなった。また、豊中市による一連の音楽文化政策が奏功し、“音楽あふれるまちづくり”の実現に向けた機運が市民の間で醸成されつつあることも示唆された。

キーワード： 創造都市、創造都市政策、文化芸術政策、音楽文化政策、総合計画、まちづくり

1. はじめに

近年、社会経済の構造変化に伴う都市問題を文化芸術や創造的産業（クリエイティブ産業）¹の活用によって解決し、都市を再生・活性化しようとする「創造都市」の概念が国内外で注目を集めている。「創造都市」とは、C. ランドリー（Landry, 2000）やR. フロリダ（Florida, 2008）を筆頭に、さまざまな論者によって議論されてきた概念で、音楽や映画、ゲーム、ファッションなどの創造的産業や文化芸術が持つ「創造性」を活用することによって、都市の価値や魅力を創出し、都市の再生・活性化や地域の持続的発展を目指すというものである。

日本国内においても、「クリエイティブシティ・ヨコハマ（創造都市・横浜）」を掲げ、創造性を中核に据えたさまざまな施策や事業を展開している神奈川県横浜市や、後述する「ユネスコ創造都市ネットワーク」に2009年、クラフト&フォークアート分野で加盟が認定されて以降、官民連携による「創造都市推進プログラム」を実施している石川県金沢市、同様に2014年、音楽分野での加盟が認定された静岡県浜松市のように、「創造都市」の実現を政策の一つとして標榜する自治体は増加傾向にある。

そのような中で、日本の中核市・大阪府豊中市は、大阪都市圏における「住宅都市」でありながら、「音楽あふれるまち・とよなか」を掲げ、音楽を主軸としたさまざまな文化芸術施策や創造都市政策を展開することによって、地域コミュニティや都市の活力向上へとつながるような取り組みを行っている。そこで、本稿では「創造都市」の概念に着目し、音楽をはじめとする文化芸術を活用した都市や地域の再生・活性化やまちづくりの可能性について

て、豊中市による音楽文化政策の取り組み事例を通して考察することを目的とする。

2. 「創造都市」とは

2-1 「創造都市」の概念

「創造都市」の概念についてはこれまで、さまざまな領域や立場から多様な議論が交わされており、その定義も提唱者により多岐にわたるが、のちの都市政策への応用に直接の影響を及ぼしたのが P.ホールや C.ランドリー、R.フロリダらの理論で、現在の各国の創造都市政策への応用の道標となっている（福島・立花, 2014）²。

1990 年代以降、欧州では従来の基幹産業である製造業や造船業などが衰退し、失業者の増加や経済不況などに伴う治安の悪化、社会福祉制度や地方財政の破綻などによって、かつて栄華を極めた多くの工業都市が次々と退廃していった。そうした中、ビルバオ（スペイン）やナント（フランス）といった、かつての工業都市が音楽やアートなどの文化芸術を活用し、都市再生を図ろうとする動きが見られるようになった³。そこで、C.ランドリー（2000）らは、文化芸術が持つ創造的なパワーを生かして社会の潜在力を引き出そうとする欧州の都市の試みに注目し、「創造都市」を理論化しようとした（佐々木, 2012）⁴。そして、文化芸術が持つ創造性に基づく産業や試みによって繁栄する都市を、「創造都市」と呼ぶようになっていった。

また、日本における創造都市研究の中心的論者である佐々木雅幸（2007, 2012）は、「創造都市とは市民の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に、脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ都市である」と定義している（佐々木, 2007, 2012）⁵。

2-2 日本における「創造都市」の動向

「創造都市」の概念に基づく創造都市政策は、都市再生・活性化の政策モデルとして注目を集め、国内外の多くの都市が「創造都市」に向けた取り組みを始めている。このような背景から、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は 2004 年、「経済的、社会的、文化的、環境的側面において、創造性を持続可能な開発の戦略的要素として認識している都市間の協力を強化すること」を目的に、「ユネスコ創造都市ネットワーク⁶」事業を開始した。本事業では、「クラフト＆フォークアート」、「デザイン」、「映画」、「食文化」、「文学」、「メディアアート」、「音楽」の 7 つの創造的な分野において優良事例となる都市を認定し、都市間の国際的なパートナーシップの下でさまざまな知見を共有しながら、創造性と文化産業の促進による都市開発などを図っている。本事業には、2023 年 11 月 1 日現在で世界の 350 都市が加盟し、日本からは神戸市（2008 年、デザイン）、名古屋市（2008 年、デザイン）、金沢市（2009 年、クラフト＆フォークアート）、札幌市（2013 年、メディアアート）、鶴岡市（2014 年、食文化）、浜松市（2014 年、音楽）、丹波篠山市（2015 年、クラフト＆フォークアート）、山形市（2017 年、映画）、旭川市（2019 年、デザイン）、臼杵市（2021 年、食文化）、岡山市（2023 年、文学）の 11 都市が加盟認定されている。

一方、日本では、文化庁が文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興などに領域横断的に活用し、地域課題の解決に取り組む地方自治体を「文化芸術創造都市」と位置付け、2007 年度に「文化庁長官表彰〔文化芸術創造都市部門〕」を設置するなど、地方自治体による創造都市の取り組みを支援している⁷。また、2013 年には、創造都市の取り組みを推進する地方自治体などを支援するとともに、創造都市間の連携や交流を促進し、日本における創造都市の普及と発展を目指して「創造都市ネットワーク日本（CCNJ）」が設立され、2024 年 3 月現在で豊中市を含む 170 の団体が参加している⁸。

2-3 日本における創造都市政策の事例：横浜市⁹

現在、日本における「創造都市」を牽引する都市の一つが横浜市である。人口約 376 万人¹⁰を誇る横浜市は、1859 年に横浜港が開港して以来、交易都市として栄え、また、京浜工業地帯が形成されてからは工業都市としても発展してきた。しかし、都心臨海部を中心に、開港当時の歴史を今に伝える西洋・近代建築が少しずつ姿を消し、オフィスビルの空室率が上昇するなど、文化・経済の両面で次第に活力が失われていった。そこで、文化芸術などの創造的な活動によって、都市を再生・活性化させることを目指す「創造都市」の概念に着目し、2004 年 1 月、「文化芸術創造都市－クリエイティブシティ・ヨコハマの形成に向けた提言」を発表した。そして、横浜市の最大の強みである「港を囲む独自の歴史や文化」と文化芸術が持つ「創造性」を活用し、都市の新しい価値や魅力を生み出す都市づくりを目指す「創造都市横浜」の施策が展開されることとなった。

「創造都市横浜」の基本方針として、①創造性が刺激されるような「創造界限」の展開、②アーティストやクリエイター、横浜の将来を担う子供たちを育成・支援する創造的な環境の実現、③映像・音楽・ICT などの創造的産業の振興やクラスター形成による経済活性化、④国際展覧会や創造界限拠点の運営などの創造都市施策におけるリーディングプロジェクトの実現、⑤創造都市横浜の国内外への発信とアジアにおける文化芸術のハブ都市の形成の 5 つを掲げ、これまでにさまざまな事業やプロジェクトを進めている。その中核となるのは、「BankART1929¹¹」事業に代表される「創造界限拠点」の運営で、歴史的建造物や倉庫、空きオフィスなどの地域資源や遊休施設をアーティストやクリエイターらの創作活動拠点へと転用し、新たな賑わいづくりや地域の活性化を目指すものである。また、2005 年に「映像文化都市」の実現を目指して東京藝術大学大学院映像研究科を誘致するなど、文化芸術やエンターテインメントなどの創造的産業の集積を促進し、雇用の創出や人材育成を図るほか、国内最大級となる現代アートの国際展覧会「横浜トリエンナーレ」を開催し、“文化芸術創造都市・横浜”を積極的に発信している。このように、都市や地域が有する特性や強みに加え、文化芸術の創造性を活用することによって、新たな都市の価値や魅力を創出する創造都市政策の取り組みは、さまざまな課題を抱える都市や地域にとって、それらを克服するうえでの示唆を与えるものと考えられる。

3. 音楽文化政策によるまちづくりの事例：大阪府豊中市

3-1 豊中市の歴史

豊中市は大阪府中央部の北側に位置し、北東の起伏に富む千里山丘陵部や市街地がある豊中台地の中央部、低地が広がる西・南部から成る地勢で¹²、人口約 40 万人¹³を誇る中核市である。

「豊中」の地名誕生の起源は明治維新にまで遡り、廃藩置県後の 1889 年、摂津国¹⁴豊島郡の 5 つの村が合併し、豊島郡の中央にあたることから「豊中村」と名付けられた¹⁵。その後、1910 年に箕面有馬電気軌道が大阪・梅田と兵庫・宝塚を結ぶ路線（現在の阪急電鉄宝塚線）を開業し、それに伴って沿線の住宅開発が推進されると、駅を中心に住宅市街地が形成され、優良な郊外住宅地へと発展していった。1936 年には豊中町、麻田村、桜井谷村、熊野田村が合併して「豊中市」となり、その後、数回の合併を経て、現在の市域となった。このように、大阪府に近い利便性と住宅地に適した丘陵地帯を有する豊中市は早くから絶好の住宅地域として選ばれ、大阪大学や大阪音楽大学などが立地する文教都市としての知名度が高まるにつれて人口が急増していった。それに伴い、住宅の建設や学校・道路・上下水道などの都市施設の整備が拡充し、さらに、「千里ニュータウン」の開発や千里丘陵での「日本万国博覧会」（1970 年）の開催に伴う北大阪急行電鉄の整備、名神・阪神高速道路や新御堂筋・中央環状線などの開通も相まって、市勢は急速に発展を遂げてきた。

3-2 豊中市の概況および地域の特性¹⁶

豊中市は、①千里エリア、②鉄道沿線エリア、③空港周辺エリア、④西部エリア、⑤南部（庄内）エリアの5つの地域に大別され、それぞれの地域が異なる特性を有している。まず、市北東部の千里エリアは、1970年の千里中央地区オープン以降、市を代表する商業エリアとして活況を呈していたが、周辺都市における大規模商業施設の立地や社会情勢の変化などの影響を受け、地区の年間小売販売額が大きく落ち込むようになっていった。しかし、2014年度に開始した「よみうり文化センター（千里中央）再整備事業」に伴って、新たな大型商業施設や住宅施設、医療・福祉施設が次々と新設されるなど、新たな都市機能が導入されている。

次に鉄道沿線エリアは、大阪国際空港（以下、伊丹空港）が立地する「蛍池」、公共施設が集積する「豊中・岡町」、文化・スポーツ施設が立地する「曽根・服部天神」、商業・業務の中心である「庄内」、病院などの医療系施設が多い「柴原・少路」、服部緑地へのアクセスとなる「緑地公園」と、それぞれ特徴ある駅前の様相を呈している。また、近年は、教育・学習支援や医療・福祉関連事業所の立地が増加傾向にあるのも特徴の一つである。

伊丹空港は都心や新大阪駅に近い利便性の高さから、1994年の関西国際空港開港後も国内の基幹空港として利用者数を伸ばし、2021年12月現在で全国33空港に直行便が就航するなど、豊中市と日本全国各地とを直接結ぶ拠点となっている。それに伴って、空港周辺地域ではさまざまな商業施設が開業するなど、飛行機の乗降客以外の利用者の集客が大いに志向されている。

古くから機械金属を中心とする製造業の集積地となっている西部エリアは、伊丹空港の開港や1960年代の名神・阪神高速道路開通に伴って、運輸業や製造業関連事業所の集積が進行し、現在は準工業地域に指定されている。とくに、西部地域における業種別事業所数では製造業が4割以上を占めるなど最も多く、事業所の安定した操業環境の維持・形成を目的に「産業誘導区域¹⁷」を設定するなど、同地域への企業立地促進施策が展開されている。

最後に、南部（庄内）エリアは庄内駅を中心に、商店街や豊南市場などの界限性を持つ商業・業務関連事業所が集積し、活気のあるまちとしても知られているが、近年は少子高齢化に伴う人口減少や公共施設の老朽化といった課題にも直面している。

3-3 豊中市における現状と課題

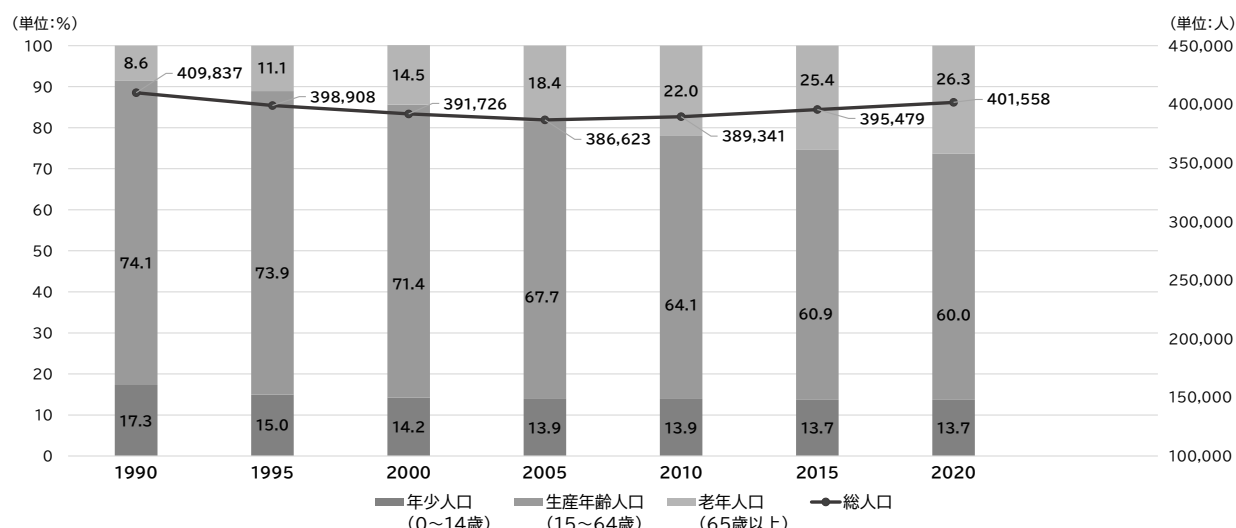
2020年の国勢調査によると、豊中市の産業別就業者数（15歳以上）の割合は¹⁸、農業や漁業などの第一次産業が約0.3%、建設業や製造業などの第二次産業が約18.5%、卸売業・小売業や教育・学習支援業といったサービス産業などの第三次産業が約77.7%で、豊中市における第三次産業に従事する者の割合が極めて高いことが分かる。業種別で見ると、2016年度の豊中市内で最も多い業種別事業所は卸売業・小売業（21.5%）で、宿泊業・飲食サービス業（12.9%）、医療・福祉（12.6%）、製造業（9.6%）などが後に続く¹⁹。また、業種別の従業者数では卸売業・小売業（20.4%）が最も多く、次いで医療・福祉（18.5%）、製造業（11.2%）、宿泊業・飲食サービス業（9.7%）となっている。ここで注目すべきは、医療・福祉や宿泊業・飲食サービス業、製造業などの事業所数が比較的少ない業種であっても従業者数は多いという点で、豊中市において相当数の労働人口が求められていることが示唆される。

また、豊中市の年齢3区分別人口の推移²⁰を見てみると（図表1参照）、豊中市の年少人口（0～14歳）は2005年以降、ほぼ横ばい傾向にあり、2020年は54,916人となったが、年々減少を続ける生産年齢人口（15～64歳）は240,797人まで落ち込む一方で、増加傾向にある老年人口（65歳以上）は105,379人となった。これを豊中市の総人口401,558人（2020年）に占める割合で見ると、年少人口の構成比は13.7%、生産年齢人口は60.0%、老年人口は26.3%となり、同市の総人口は増加傾向にあるものの、少子高齢化に伴って人口構成が変化していることが分かる。さらに、豊中市の転入出者数の推移について見てみると、近年は全体的には転入超過となっている

が、東京都や神奈川県などの関東圏へは転出超過の状況が続いており、関東圏への人口流出の拡大も懸念される。

これらは、本格的な人口減少時代へと突入した日本全体が抱える問題でもあるが、小売業や宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉、製造業などを主要産業とする同市にとっては、深刻な問題とも成り得る。とくに、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や市外への人口流出は、若者を中心とする市の担い手不足やそれに伴う地域の財源不足などを引き起こし、地域コミュニティの活力の低下や社会生活環境の悪化などにつながることも懸念される。

図表1：豊中市における年齢3区分別人口の推移



出所：豊中市（2023a）「第4次豊中市総合計画後期基本計画」p.7をもとに筆者作成

しかし、出生数の増加などによる人口増加や人口構造の若返りには、ある程度の長期的な視点で取り組む必要があることから、早急な対策としては、若い世代を中心とした生産年齢人口の流入促進や転出抑制を図ることが重要となる。そのためには、子育て・若者支援や教育環境の拡充、地域福祉活動や保険・医療環境の充実、自然環境や社会生活インフラの整備、良好な就労環境の確保とその受け皿となる地域産業の振興などが必要である。また、同市への定住を促進するための地域コミュニティの活性化や、賑わい創出なども同時に進めていくべきであろう。

3-4 豊中市の「総合計画」に基づくまちづくり

これらの課題に対し、豊中市では2017年度に策定した「第4次豊中市総合計画」（以下、第4次総合計画）において、まちの将来像「みらい創造都市 とよなか ～明日がもっと楽しみなまち～」をビジョンとして掲げ、その実現に向けて市民・事業者・行政が協働、連携しながら、さまざまな施策に取り組んでいる。

「総合計画」とは、豊中市自治基本条例（2007年4月施行）に基づいて、市政運営の根幹となるまちの将来像を明らかにし、これを達成するための施策を総合的、体系的に示すもので²¹、一般に地方自治体の最上位に位置づけられる計画である²²（肥後, 2021）。同市では、1969年から総合計画に基づくまちづくりを進めており、2018年度からは目標年度を2027年度とした「第4次総合計画」において、2018年度から2022年度までを前期基本計画期間、2023年度から2027年度までを後期基本計画期間とし、「まちの将来像」を実現するための施策体系を提示している。具体的には、①子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり、②安全に安心して暮らせるまちづくり、③活力ある快適なまちづくり、④いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり、⑤施策推進に向けた取組みの5つを柱とし、2023年度以降の後期基本計画では、16施策と横断的なリーディングプロジェクト（重点的かつ先導的に取り組む事業）が設定されている²³。

これらの施策の中でもとくに、まちの活力向上や賑わい創出による地域コミュニティの活性化につながると考

えられるのが、「学びと文化のあふれるまちづくり」の取り組みで、④いきいきと心豊かに暮らせるまちづくりを実現するための施策の一つとなっている²⁴（図表2参照）。

この取り組みでは、市の歴史や地域資源、文化芸術、スポーツなどを活用することによって都市の魅力を創造・発信していくことを目指しているが、その中でも、「音楽」を活用した“音楽あふれるまち豊中”の推進に注力している。肥後（2021）によれば、これまでの豊中市の総合計画における「音楽あふれるまち豊中」という記述は、「第4次総合計画」が初めてであり²⁵、これを契機に「音楽」を主軸とした文化芸術振興政策や、音楽を通じたまちづくりがより推進されるようになったと考えられる。

図表2: 「学びと文化のあふれるまちづくり」施策の方向性

(1)都市の魅力と文化芸術の創造、歴史・文化資源の保全・活用を進めます		
1	魅力創造・発信の推進	「暮らしの舞台」として選ばれるよう地域資源や特性を生かした都市の魅力を創造・発信
2	文化芸術にふれる機会や活動の場の提供	あらゆる市民が多様な文化芸術にふれられる機会の充実
3	文化芸術の担い手の育成と市民の文化芸術活動への支援	文化芸術を担う人材育成の推進や助成金の支給、市民の自主的な文化芸術活動の支援や顕彰する取り組みの推進
4	“音楽あふれるまち豊中”の推進	「とよなか音楽月間」をはじめ、日本センチュリー交響楽団、大阪音楽大学、市内の多様な主体との取り組みを多彩に展開し、音楽に親しむ場と機会の充実
5	歴史・文化遺産の保存と活用	市の歴史・文化遺産を次世代に継承するため、一元的に文化財を保存活用できる施設を確保
6	姉妹都市・兄弟都市との交流促進	姉妹都市・兄弟都市との相互訪問などの交流促進の支援
(2)生涯を通じた学びの機会の充実と成果を活かせる場や機会づくりを進めます		
1	学びの支援と学習機会の充実	市民の多様な学習意欲や知的好奇心を高める支援、学習機会と場の充実、情報の提供など
2	地域における学習活動などの推進	多世代の交流を促進し、生活課題や地域課題の解決に向けた取り組みにつなげるための場や機会づくりの推進
(3)スポーツにふれる機会の創出とスポーツ施設の環境整備を進めます		
1	市民がスポーツにふれる機会の創出	ライフステージに応じた生涯スポーツ活動の支援、スポーツ大会・イベントなどの機会の創出
2	安心して利用できるスポーツ施設の環境整備	市民のスポーツ活動などの機運を醸成するため、スポーツ施設の利用促進やスポーツに親しむ環境の整備

出所：豊中市（2023a）「第4次豊中市総合計画後期基本計画」pp.72-74をもとに筆者作成

4. 豊中市における音楽文化政策

4-1 “音楽あふれるまち・とよなか”の取り組み²⁶

豊中市は2006年に文化芸術振興条例を制定し、その後、2008年の文化芸術振興基本方針に続き、2012年には文化芸術推進プランを策定するなど、早くから「音楽あふれるまち・とよなか」の取り組みを始めてきた。

とくに、市内に立地する大阪大学や大阪音楽大学、日本センチュリー交響楽団との協定に基づく連携・協力によって、毎年秋に開催している「とよなか音楽月間」では、「豊中まちなかクラシック」や「豊中こども音楽フェスティバル」などの音楽イベントが数多く行われ、市内外から訪れる多くの来場者で賑わっている。また、市民活動団体と多様な主体で構成される「しょうないREK（レック）」と協働で、さまざまなワークショップや音楽祭を開催するなど、市民による主体的な音楽創造の場づくりを行っている。さらに、2017年にオープンした「豊中市立文化芸術センター（旧豊中市立市民会館）」には、日本センチュリー交響楽団を含む共同事業体が指定管理者として携わるなど、国内の大型公立文化施設では先駆的な運営手法としても注目を集めている。これらの取り組みは高く評価され、2015年度の「文化庁長官表彰〔文化芸術創造都市部門〕」を受章するなど、音楽を中心とする文化芸術創造都市としての豊中市の知名度は、ますます高まっている。

4-2 音楽あふれるまちづくりのための施策

豊中市では、「音楽あふれるまち・とよなか」を広く周知するために、毎年10月頃からの約2カ月間を「とよ

なか音楽月間」と定め、日本センチュリー交響楽団による多彩なアンサンブルを楽しむ「豊中まちなかクラシック」をはじめ、さまざまな音楽イベントを市内各地で開催している。2012 年度から始まった「とよなか音楽月間²⁷⁾」は 2022 年度で 10 周年を迎え、2023 年度には 10 月 1 日から 12 月 10 日までの開催期間中、60 以上もの多種多様な音楽イベントが「まちなか」で実施された（図表 3 参照）。

とよなか音楽月間のメインイベントとなるのは、服部緑地に本拠地を置く日本センチュリー交響楽団による「豊中まちなかクラシック」で、日本キリスト教団豊中教会や東光院萩の寺、西福寺、センチュリー・オーケストラハウスといった豊中市内の歴史的建造物などを会場に、特別に編成された魅力あふれるアンサンブルによるクラシックコンサートを楽しむことができる。豊中市と日本センチュリー交響楽団は 2012 年 9 月、「音楽あふれるまちの推進に関する協定」を締結し、地域の音楽資源や人材を活かしながら、文化芸術の創造性に満ちた雰囲気を醸成する「音楽あふれるまち」の実現に協働して取り組み、市民の誇りとまちへの愛着を深めるための事業や取り組みを展開している²⁸⁾。

同様に、豊中市は文化、教育・研究、まちづくり、国際交流などのさまざまな分野において、人的交流や知的・物的資源の相互活用連携協力を推進することによって、地域社会の持続的な発展に資することを目指して、2007 年に大阪大学と、2011 年には大阪音楽大学および大阪音楽大学短期大学部と「包括協定」を結んでいる。大阪音楽大学とは協働で、市内の中学・高校の吹奏楽部の演奏が楽しめる「豊中こども音楽フェスティバル」だけでなく、大阪音楽大学の学生や教員らが市内の小中学校などで出張演奏や演奏指導を行う「サウンドスクール」や「豊中音楽コンクール」、「市民ロビーゆうゆうコンサート」など、音楽を核としたさまざまな連携事業を行っている²⁹⁾。

一方、とよなか音楽月間の期間終了後にも、「豊中市民第九演奏会」や「世界のしょうない音楽祭」など、市民参加型の音楽イベントが多数催され、市民の誰もが音楽を楽しめるきっかけや、つながりの場が創出されている。例えば、豊中市民や豊中市内で活動する音楽団体、日本センチュリー交響楽団、大阪音楽大学が主体となってつくる「世界のしょうない音楽祭」では、事前に実施されるワークショップを重ねながらオリジナル作品（楽曲）をつくり、同音楽祭で披露されるが、参加には演奏経験や楽器所有の有無、年齢などの条件はなく、音楽が大好きであれば誰でも自由に参加することができる³⁰⁾。

図表 3：とよなか音楽月間（2023 年 10 月 1 日～12 月 10 日）の主なプログラム

	イベント名	内容
大阪音楽大学と	第11回 豊中こども音楽フェスティバル	子どもたちが中心となり、舞台上で演奏や演技を披露
	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第63回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団による定期公演
	ドリームコーラスコンサート	宝塚音楽学校、関西学院大学グリークラブ、大阪音楽大学の3校によるジョイントコンサート
豊中市立文化芸術センター	ブラック・ボトム・プラス・バンド' 23 ローズ文化ホール いったんさよならフェス！！	豊中で結成されたニューオリンズスタイルジャズバンドがローズ文化ホールの1年間の休館前にライブを敢行
	東京混声合唱団 大阪定期演奏会 No.28	日本有数のプロ合唱団が豊中に究極のハーモニーを響かせる
	センチュリー豊中名曲シリーズVol.28「ゆるやかな片鱗」	2023年度は「変化」をテーマに4つのタイトルでコンサートを実施
日本センチュリー交響楽団と豊中まちなかクラシック	象たちも憩いて草を食み～コントラバスだけのコンサート～	編成：コントラバス 会場：日本キリスト教団 豊中教会
	脈打つ～リズムと激流～	編成：ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス 会場：西福寺
	稀有な出逢い～バセットホルンとハーブ～	編成：クラリネット、ハーブ 会場：東光院 萩の寺
	やっぱりメロディ！	編成：チェロ、ピアノ 会場：桜の庄兵衛・米蔵
	笛と弦で織り成す音絵巻～古代ローマ、アメリカへの憧憬～	編成：フルート、ヴァイオリン、ピアノ 会場：センチュリー・オーケストラハウス
その他	とよなか音散歩Vol.2 ～ベートーヴェンと共に～	「バッハのルーツを辿って福音ルーテル教会へ」をテーマに演奏とお話
	第20回 豊中市文化芸術祭	豊中市文化芸術連盟による三曲、雅楽、合唱、吹奏楽、舞踏などの舞台
	とよなか第九	小学生からシニア世代まで、初心者から参加できる「第九」演奏会

出所：豊中市（2023b）「音楽あふれるまち とよなか音楽月間」パンフレットから一部抜粋して筆者作成

また、同市では、学校などで使われなくなったピアノを子供たちがペイントし、誰でも自由に弾いてもらえるストリートピアノとして豊中市内を巡回するプロジェクト「とよなかピアノ³¹⁾」を実施し、ペイントされたピアノを活用することで、音楽とアートの両方に触れる“場”を創出し、「音楽あふれるまち」「アートあふれるまち」を推進している。同プロジェクトでは、巨大絵本作家・山田龍太氏が率いるアトリエヤマダと市内の子供たちが協同して、グランドピアノやアップライトピアノをペイントし、それぞれに「とよなかピアノ緑（ミド）」、「とよなかピアノ宙（ソラ）」と愛称が名付けられ、千里中央公園や市内の駅構内、商業施設などに設置されているほか、豊中市出身のピアニスト・西村由紀江氏によるピアノ演奏会などを実施している。

さらに、豊中市が新たな文化芸術の創造・発信拠点として運営している「豊中市立文化芸術センター」では、幅広い鑑賞事業に加え、地元の演奏家と市民コーディネーターの育成を目的とした人材育成事業「とよなか ARTS ワゴン」や、大学との連携によるさまざまなプロジェクトを展開するなど、音楽を中心に文化芸術と市民をつなぐハブとしての役割を果たしている³²⁾。

このように、豊中市では、音楽などの文化芸術が有する創造性にいち早く着目し、市の歴史や文化資源、人材といった地域の優位性を最大限に活用することによって独自性の高い音楽文化政策を展開し、“音楽あふれるまち”づくりを目指す取り組みを推進してきたものと考えられる。

5. おわりに

豊中市では、市民が日頃感じていることや市の取り組みに関する満足度などの現状を把握するため、2年に一度、市民意識調査を実施している³³⁾。2023年8月に市内在住の約8,000人を対象に行われた「2023年度 豊中市市民意識調査³⁴⁾」によると、「豊中市は文化的なまちだと思いますか」の問いに対し、「思う」または「どちらかといえば思う」と回答した人の割合は67.6%で、これまでの調査結果³⁵⁾（2017年度57.0%、2019年度58.6%、2021年度64.2%）と比較すると、年々割合が上昇していることが分かる。また、「豊中市は文化的なまちだと思う理由」として、「文化芸術センターを活用した文化振興が充実しているから（66.5%）」や「音楽を中心とした文化芸術の練習・発表・鑑賞の場が充実しているから（47.2%）」、「多様なジャンルの文化芸術に触れる機会が充実しているから（38.7%）」などが挙げられた³⁶⁾。

さらに、「豊中市は生きがいをもって心豊かに暮らせるまちだと思いますか」の問いに対しては、「思う」または「どちらかといえば思う」と回答した人の割合は59.3%となり、「第4次総合計画」を策定した2017年度（46.9%）と比較して、12ポイント以上も上昇していることが明らかとなった³⁷⁾。「生きがいをもって心豊かに暮らせるまちだと思う理由」については、「生涯を通して学ぶことができる機会が充実しているから（31.5%）」や「地域における学習活動の機会が充実しているから（31.3%）」などが列挙され³⁸⁾、先述した「学びと文化のあふれるまちづくり」施策の成果が少しずつ表れていることも伺える。

以上のことから、豊中市がこれまで行ってきたさまざまな音楽文化政策が奏功し、市民が音楽をはじめとする文化芸術に触れたり、親しんだり、学んだりする機会や場の創出・拡大が促進され、「音楽あふれるまち・とよなか」の実現に向けた機運が市民の間で醸成されつつあることが示唆される。しかしながら、一連の音楽文化政策による賑わい創出や地域コミュニティの活性化の取り組みが市民の定住化を促し、さらには、市民の地元への誇りや愛着を深めることにも寄与したかについては、本稿において検討することができなかったため、今後の研究課題とした。また、本稿では「第4次総合計画」における音楽文化政策の取り組み内容についての議論にとどまっており、音楽文化各政策の仕組みや具体的な実施方法、財政状況や今後の課題のほか、総合計画における他の施策との連動性などについては触れられていないことから、上述の研究課題とあわせて検討していく必要があると考える。

今後、豊中市が「音楽あふれるまち・とよなか」を実現し、「みらい創造都市・とよなか ～明日がもっと楽しみなまち～」としてさらに発展していくには、豊中市が目指すまちづくりの方向性やビジョンをより広く周知し、豊

中市に関わる人々をまちづくりの主体として、これまで以上に巻き込みながら価値共創していくことが重要となるだろう。豊中市における音楽文化政策によるまちづくりの取り組みに期待し、さらに深耕していきたい。

注釈

- ¹ 創造的産業（クリエイティブ産業）は、1998年に英国政府（文化・メディア・スポーツ省）が提唱した概念で、「個人の創造性や技術、才能に起源を持ち、知的財産の創造と市場開発を通して財と雇用を生み出す可能性を有する産業」と定義され、①広告、②建築、③美術・骨董品市場、④工芸、⑤デザイン、⑥デザイナーズ・ファッション、⑦映画・ビデオ、⑧テレビ・コンピュータゲームソフト、⑨音楽、⑩舞台芸術、⑪出版、⑫コンピュータソフトウェア・コンピュータサービス、⑬テレビ・ラジオの13分野を対象としている（吉本（2003）、p.1）。
- ² 福島・立花（2014）、p.40
- ³ 1990年代以降の欧州における創造都市の試みについては、野田（2014）、pp.144-152を参照し、まとめて記述した。
- ⁴ 佐々木（2012）、p.42
- ⁵ 佐々木（2007）、p.42、佐々木（2012）、p.44
- ⁶ 「ユネスコ創造都市ネットワーク」については、文部科学省公式ウェブサイト「ユネスコ創造都市ネットワークについて」、<https://www.mext.go.jp/unesco/006/1357231.htm>（2024年2月8日閲覧）を参照し、まとめて記述した。
- ⁷ 文化庁HP「文化芸術創造都市」https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/chiho/creative_city/（2024年2月8日閲覧）
- ⁸ 創造都市ネットワーク日本（CCNJ）公式ウェブサイト「CCNJについて」<https://ccn-j.net/ccnj/>（2024年4月25日閲覧）
- ⁹ 創造都市としての横浜市については、横浜市公式ウェブサイト「創造都市～アートを通じたまちづくり～」<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/bunka/sozotoshi/> ACY：アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）ウェブマガジン「創造都市横浜」<https://yokohama-sozokaiwai.jp/>（共に2024年2月8日閲覧）、横浜市文化観光局創造都市推進課パンフレット「文化芸術創造都市・横浜」を参照し、まとめて記述した。
- ¹⁰ 横浜市公式ウェブサイト「推計人口・世帯数（最新）」<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/tokei-chosa/portal/jinko/maitsuki/saishin-news.html>（2024年3月8日閲覧）によると、2024年3月1日現在、人口3,764,961人。
- ¹¹ 横浜市が歴史的建造物などを文化芸術に活用し、都心部再生の起点としていく「創造都市横浜」施策のリーディングプロジェクトで、歴史的建造物である旧第一銀行横浜支店・旧富士銀行横浜支店（共に1929年建設）をアートに活用したことから名付けられた文化芸術創造発信拠点となっている。
- ¹² 豊中市公式ウェブサイト「市の概要：豊中市の位置」<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/shoukai/gaiyou/ichi.html>（2024年2月18日閲覧）
- ¹³ 豊中市公式ウェブサイト <https://www.city.toyonaka.osaka.jp/>（2024年3月8日閲覧）によると、2024年2月1日現在、人口398,844人。
- ¹⁴ 「摂津国」とは、現在の大阪府北西部（・南西部）と兵庫県東部の旧国名を指す。
- ¹⁵ 豊中市の歴史については、豊中市公式ウェブサイト「市の歴史：豊中の歴史と歩み」<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/shoukai/history/history.html>（2024年2月18日閲覧）を参照し、記述した。
- ¹⁶ 豊中市の地域ごとの特性については、豊中市（2022b）、pp.33-39を参照し、まとめて記述した。
- ¹⁷ 「産業誘導区域」とは、事業所が集積し住宅立地が進んでいない地域において、今後も事業所の集積を図ることによって住工混在の進行を防止し、安定した操業環境の維持・形成を目的に設定される区域を指す。
- ¹⁸ 豊中市の産業別就業者数については、豊中市公式ウェブサイト「令和4年豊中市統計書：3. 国勢調査（17. 産業大分類、男女別15歳以上就業者数）」https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/toukei_joho/toukeisho/tokei/4_toukeisyo.html（2024年2月20日閲覧）を参照し、まとめて記述した。
- ¹⁹ 豊中市の業種別事業所数・従業者数などについては、豊中市（2022b）、pp.27-30を参照し、まとめて記述した。
- ²⁰ 豊中市の年齢3区分別人口の推移および転入出者数の推移については、豊中市（2023a）、p.7、p.97、豊中市公式ウェブサイト「令和4年豊中市統計書：3. 国勢調査（10.年齢（各歳）および男女別人口）」（前掲、2024年2月20日閲覧）を参照し、まとめて記述した。
- ²¹ 豊中市（2023a）、p.2
- ²² 肥後（2021）、p.91
- ²³ 豊中市（2023a）、p.28
- ²⁴ 豊中市（2023a）、pp.72-74
- ²⁵ 肥後（2021）、p.102。なお、豊中市の「総合計画」における文化芸術に関する記述の変遷については、肥後（2021）が詳しい。
- ²⁶ 豊中市の「音楽あふれるまち・とよなか」の取り組み、文化庁長官表彰「文化芸術創造都市部門」受彰については、豊中市（2016）報道発表資料、p.1を参照し、まとめて記述した。
- ²⁷ 「とよなか音楽月間」については、豊中市公式ウェブサイト「【10周年】過去のとよなか音楽月間を振り返る」

- https://www.city.toyonaka.osaka.jp/jinken_gakushu/bunka/event/kako_event/10th_ongakugekkan.html
(2024 年 2 月 25 日閲覧)、豊中市 (2023b) パンフレットを参照し、まとめて記述した。
- ²⁸ 豊中市公式ウェブサイト「公益財団法人日本センチュリー交響楽団との『音楽あふれるまちの推進に関する協定』」
https://www.city.toyonaka.osaka.jp/jinken_gakushu/bunka/bunka_topics/centurykyoutei.html (2024 年 2 月 25 日閲覧)
- ²⁹ 豊中市と大阪大学および大阪音楽大学との包括協定や取り組みについては、豊中市公式ウェブサイト「企業・教育機関との連携協定：教育機関別」https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/keikaku/koumin_renkei/kyotei/daigaku_renkei/index.html (2024 年 2 月 25 日閲覧)、豊中市 (2015)、p.10、大阪音楽大学公式ウェブサイト「社会・地域連携：豊中市『サウンドスクール』事業」
<https://www.daion.ac.jp/lecture/sound-school/> (2024 年 2 月 25 日閲覧)を参照し、まとめて記述した。
- ³⁰ 豊中市 (2023b) パンフレット、豊中市 (2023e) フライヤー
- ³¹ 豊中市のストリートピアノプロジェクト「とよなかピアノ」については、豊中市公式ウェブサイト「とよなかピアノ」、
https://www.city.toyonaka.osaka.jp/jinken_gakushu/bunka/event/ev_music/street_piano/index.html (2024 年 4 月 25 日閲覧) を参照し、まとめて記述した。
- ³² 豊中市 (2023d) 報道提供資料、p.1
- ³³ 豊中市公式ウェブサイト「市政情報：豊中市市民意識調査」
<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/keikaku/soukei4/20180302162842780.html> (2024 年 3 月 4 日閲覧)
- ³⁴ 豊中市 (2024)、p.29
- ³⁵ 豊中市 (2023c)、p.1
- ³⁶ 豊中市 (2024)、p.29
- ³⁷ 豊中市 (2023c)、p.1
- ³⁸ 豊中市 (2024)、p.30

参考・引用文献

- 佐々木雅幸＋総合研究開発機構 (2007)『創造都市への展望－都市の文化政策とまちづくり－』学芸出版社
- 佐々木雅幸 (2012)『創造都市への挑戦－産業と文化の息づく街へ－』岩波書店
- 野田邦弘 (2014)『文化政策の展開－アーツ・マネジメントと創造都市－』学芸出版社
- 肥後楽 (2021)「豊中市総合計画にみる文化芸術に関する記述の変遷」『阪大音楽学報』第 18 号、pp.89-115
- 福島徹・立花晃 (2014)「我が国における創造都市政策および創造産業の現状とその特性に関する比較考察」『兵庫県立大学環境人間学部 研究報告』第 16 号、pp.39-57
- 吉本光宏 (2003)「創造的産業群の潮流－わが国の現状とさらなる振興に向けて－」『ニッセイ基礎研 REPORT』ニッセイ基礎研究所、pp.1-6
- Florida, Richard (2008) “WHO’S YOUR CITY?－How the Creative Economy is Making Where to Live the Most Important Decision of Your Life－” (井口典夫訳 (2009)『クリエイティブ都市論－創造性は居心地のよい場所を求める－』ダイヤモンド社)
- Landry, Charles (2000) “THE CREATIVE CITY: A TOOLKIT FOR URBAN INNOVATORS” (後藤和子監訳 (2003)『創造的都市 都市再生のための道具箱』日本評論社)

参考・引用資料 ※参考・引用ウェブサイトについては、本文末の注釈に記載

- 豊中市 (2015)「とよなか物語」第 4 号 (2015 年 11 月号)
- 豊中市 (2016) 報道発表資料『『文化庁長官表彰』(平成 28 年 3 月 30 日)』
- 豊中市 (2022a)「令和 4 年豊中市統計書：3. 国勢調査」
- 豊中市 (2022b)「豊中市 新・産業振興ビジョン～地域経済の好循環による成長をめざして～」
- 豊中市 (2022c)「令和 3 年度 (2021 年度) 豊中市市民意識調査報告書」
- 豊中市 (2023a)「第 4 次豊中市総合計画後期基本計画」
- 豊中市 (2023b) パンフレット「音楽あふれるまち とよなか音楽月間」
- 豊中市 (2023c)「令和 5 年度 (2023 年度) 豊中市市民意識調査 (速報値)」
- 豊中市 (2023d) 報道提供資料「豊中市立文化芸術センターが地域創造大賞 (総務大臣賞) を受賞 (2023 年 12 月 8 日)」
- 豊中市 (2023e) フライヤー「2023 世界のしょうない音楽祭・ワークショップ」
- 豊中市 (2024)「令和 5 年度 (2023 年度) 豊中市市民意識調査報告書」
- 横浜市文化観光局創造都市推進課パンフレット「文化芸術創造都市・横浜」